



## 和食ダム 現在の状況

和食ダム堤体コンクリートの打設状況は、令和5年6月中旬時点において打設再開後の予定量22,000m<sup>3</sup>のうち約18,000m<sup>3</sup>が完了しました（進捗率81%）。

今後は、ダム本体工事と併行して、右岸上流部にて管理棟の建築工事や、ダム湖から水を取るための取水放流設備工事、ダムを操作するための設備工事、ダム上流の樹木伐採工事等の関連工事も順次進めていきます。

複数の工事受注者が現場に入りますので、これまで以上に安全に留意してまいります。

引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

ダム上流写真①



ダム上流写真②

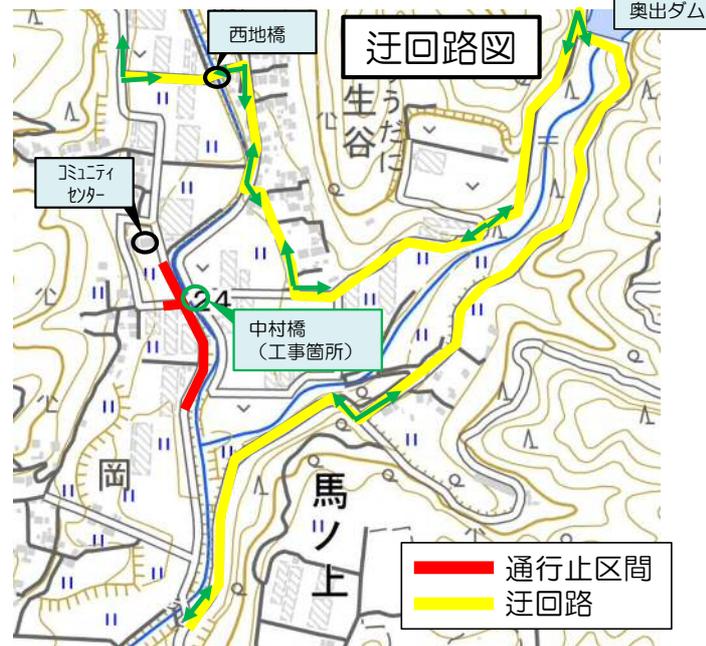


# 村道瓜生谷線の夜間工事に伴う 通行止めのお知らせ

令和5年6月19日～7月7日の期間中、中村橋架替工事において、村道瓜生谷線の舗装撤去・盛土・舗装作業に伴い夜間工事を実施しています（土曜日・日曜日は除きます）。夜間工事の期間中は、**①区間を20時～翌朝4時頃まで全面通行止め**とさせていただきます。迂回路は、図のとおり奥出ダムを經由して通行していただくことになります。なお、朝5時～19時までは、舗装作業を行わないため通行可能です。

作業の際には、通行の安全を確保するため、交通誘導員を配置します。

村道をご利用する皆さまには大変ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



## 芸西村の史跡紹介【第37弾】

旧長谷寄駅の近くに、「頌徳碑」という石碑が海に向かって建っており、内容は次のとおり記されています。「明治25年（1892）、高知師範学校4年生の生徒数名が修学旅行の帰途、長谷寄の海で泳いでいたところ、急に波が高くなり生徒1名（山崎正形）が荒波に取り残されてしまった。このとき、水泳の達人として知られていた浅津芳太郎が、身を挺して海中に潜り込み、小船の帆柱に乗せて無事救出した。当時の知事は芳太郎の行為に深く感動し金一封を贈った。芳太郎は昭和9年（1934）に死没したが、これを知った山崎正形が金百円を長谷寄地区に贈った。」人々は忘れ去られていた事件を改めて知り、旧恩を忘れない山崎の志に感動し、地区の募金により昭和10年（1935）に二人の徳を称えたことから碑が建てられました。

出典：芸西村教育委員会 芸西歴史散歩（平成17年）より